The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	中国人の留学行動と阪大の国際的ブランド力に関する調査研究
Author(s)	深町, 有希
Citation	令和元（2019）年度学部学生による自主研究奨励事業研究成果報告書. 2020
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/75971
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

２０１９年度大阪大学未来基金【住野勇財団】学部学生による自主研究奨励事業研究成果報告書

ふりがな 氏　　名	ふかまち　ゆき 深町　有希	学部 学科	法学部国際公共政策学科	学年	２年
ふりがな 共　同 研究者氏名	しみず　ようすけ 志水　陽介	学部 学科	法学部国際公共政策学科	学年	２年
	とうごう　あもん 東郷　亜門		法学部国際公共政策学科		２年
	なかの　りか 中野　梨花		法学部国際公共政策学科		２年
アドバイザー教員 氏名	山内　直人	所属	国際公共政策研究科		
研究課題名	中国人の留学行動と阪大の国際的ブランド力に関する調査研究				
研究成果の概要	研究目的、研究計画、研究方法、研究経過、研究成果等について記述すること。記入にあたっては、「大阪大学学術情報庫 OUKA」に掲載されるため、必ず様式４の（２）の注意に従い作成すること。（先行する研究を引用する場合は、「阪大生のためのアカデミックライティング入門」に従い、盗作剽窃にならないように引用部分を明示し文末に参考文献リストをつけること。）				

１．研究目的

大阪大学を含め日本の主要大学はこれまで着実に国際化を推進してきたが、そのうち多くの大学では中国からの留学生が半数以上を占め、大阪大学でさえ、留学生に占める中国人の割合は約 43%に上る。大学国際化の観点からすれば、欧米を含め世界中からバランスよく留学生を受け入れることが理想であるが、現実に中国からの留学生が圧倒的に多いことを考慮すると、いかに優秀な中国人留学生を受け入れるかが重要である。

上記の問題意識のもとに、中国人大学生が留学先の国・大学を選ぶときに重視することを明らかにする。さらに、日本の中でどのような要素が中国人留学生にとって魅力的か調査する。また、大阪大学の中国でのレピュテーションを調査し、大阪大学のブランド力を高めるため何が必要か検討する。中国では、早稲田大学が高い知名度を持っており、多くの中国人留学生を受け入れているが、早稲田のブランド力を支える要素についても事例研究したい。

本研究は中国人留学生の行動に焦点をあてる点に特色がある。中国人留学生にとって、世界の中の日本、日本の大学の中の大阪大学には、どのような魅力があり、またどのような問題点があるか、現地調査も踏まえて検討する。この研究により、将来の優秀な中国人を受け入れるために日本の大学、特に大阪大学が取組むべき課題を明らかにすることができると考える

２．　調査方法

まず、大阪大学院国際公共政策研究科に留学している学生にヒアリングを行い、そのヒアリングで得られた情報を基に、現地調査のためのヒアリング項目をブラッシュアップした。

次に中国から日本への主要な留学拠点となっている大阪大学東アジア拠点、名古屋大学中国交流センターなどを訪問し、あらかじめ送付した質問項目にしたがって、ヒアリング調査を行った。また、上海外国語大学を訪問し現地の学生、主に日本語教育を専攻している学生を対象に同様の調査を行った。上記の調査に加えて、上海対外経貿大学にてあらかじめ作成したアンケート用紙を用いて、現地の学生に街頭アンケートを行った。

以上の過程により得られた調査資料の分析、評価を行い、それらに基づき報告書を作成する。

３．調査結果

３．１．中国人の留学意識

中国の 3 大学を対象に、留学意識を持つ学生に対し留学に関する様々なアンケートをとった。主なアンケートの内容は以下の通りである。

・留学先としてどのような国、地域、大学を検討したか
・留学先大学を選択するにあたって重視する点アンケートの内容は以下の通りである。
・中国の学生が、留学先大学、留学先国についてどのようにサーチしているか
・日本の大学の知名度はどのくらいか、大阪大学は日本の大学の中でどういう位置にあるか、北京科技大学・山東財経大学・上海外国語大学の在学生 23 名にアンケート調査を行い、結果は以下の通りである。

日本語能力試験を受けたことがある在学生が 23 人全員であるのに対し英語能力試験を受けたのは 6 人。海外留学を希望している人の割合は 96%であった。次に海外留学を希望する理由について、「知識・技能の習得のため」が最も多く、「言語習得・上達のため」「自分自身の成長のため」が 2 番目に多かった。最も希望している留学先の国に 23 名全員が「日本」と答え、具体的な都市は「東京」「大阪」が半数ずつであった。「日本」と答えた理由について、「日本語の習得・上達のため」「関心のある専門分野の研究をできる大学・専門学校があるから」「日本文化に興味があるから」が主に挙げられている。希望する留学先の大学は、大阪大学・東京大学が 26%、京都大学・京都精華大学・一橋大学が 13%、東京外国語大学が 6%となった。その理由として、「関心のある知識や技能の習得ができるから」「希望する研究ができるから」「有名校だから・知名度があるから」が大多数である。次に、大学・大学院を選ぶ際に重視する点は、「自分のしたい研究ができるか」が最も多く、「身につけたい知識・技能が習得できるか」「教員の専門知識の広さ・深さ」「留学生を受け容れる体制が充実しているか」がそれに次いで多い。留学後の進路は「中国で就職したい」が最も多かったが、ほぼ同数で「日本で就職したい」学生もおり、それに次いで「日本で研究を続け、中国に戻って大学教員など研究者になりたい」という答えが多かった。

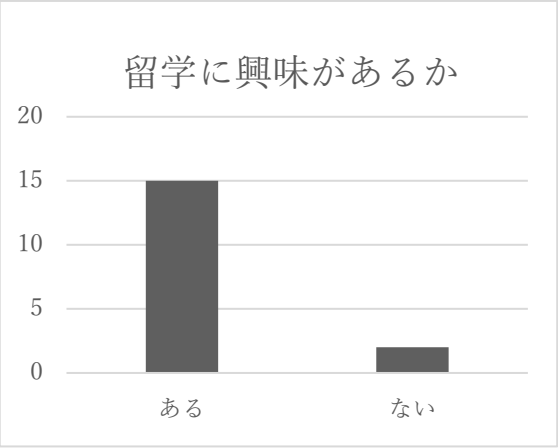
３．２．上海外国語大学ヒアリング

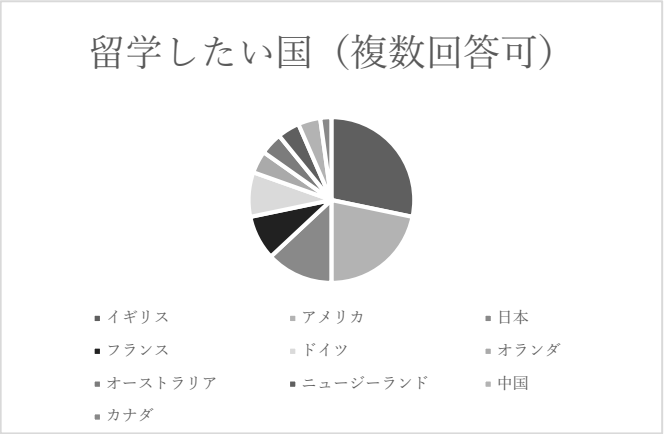
上海外国語大学では、主に日本語学科の学生に上記３．１.のアンケートを取り、さらに留学意識についてヒアリングを行った。アンケートの結果に関しては、３．１．で説明しているので、ここでは省略する。ヒアリングの結果、専攻語として日本語を選んだ理由として、中国と日本の文化の近さから英語よりも勉強しやすい、日本のアニメやドラマが好きだったから、中国語にも漢字はあるので日本語はある程度わかるなど、日本文化によるものが多かった。また、留学先を選ぶ際に考慮することとして、英語圏よりも文化が近い分日本は馴染みやすい、英語が苦手だから日本を選んだ、親の影響力が強いなどという回答が得られた。特に親の影響力に関して、親は大学ランキングや大学の設備など大学に関する知識はあまり持っておらず、単に認知度の高さで選んでいると答える学生が多かった。さらに大学の認知度に関して、認知度が高い大学に留学すると、それだけで家族や地元の友達に自慢できるからという理由で留学先を選ぶという回答も得られた。

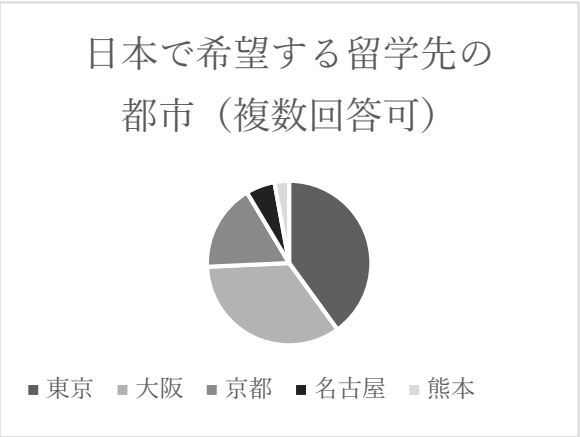
ヒアリングを行った学生がほぼ日本語学科の学生であったということは考慮しなければいけないが、このように日本文化や大学の認知度が重要であるとわかった。

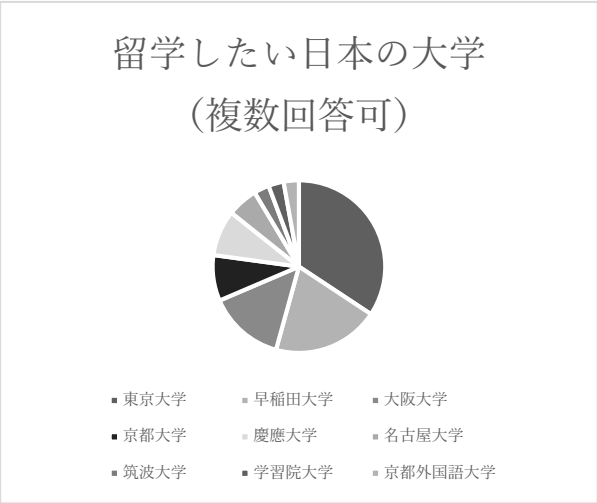
３．３．上海対外経貿大学ヒアリング

上海対外経貿大学では、３．１．で使用したものとは別の英語で作成したアンケートを用いて、現地の学生 16 人に街頭アンケートを行った。アンケート結果を示したのが、以下の図である。









このように、約８割の学生が欧米を留学先として希望しており、日本を希望する学生も一定数いることがわかった。

３．４．名古屋大学中国交流センターおよび大阪大学東アジア拠点ヒアリング

名古屋大学中国交流センターと大阪大学東アジ拠点をそれぞれ訪問し、ヒアリングを行った。

名古屋大学中国交流センターの主な業務は、以下の４点であった。

・中国における教育・研究等の学術交流活動の促進・支援
・学生海外派遣・留学生受け入れ等の支援活動
・広報・リクルート活動支援
・海外同窓会ネットワークの中国における連絡窓口

また、大阪大学東アジ拠点の主な業務は以下の３点であった。

・中国からの優秀な留学生の受入れ及び本学学生の中国への留学支援
・中国の大学等との研究交流の支援
・中国内の大阪大学同窓会の活動支援

このように、両者とも業務内容は大きくは変わらないが、名古屋大学は特に中国の大学との交流プログラムや留学プログラムに力を入れており、この点が留学生の誘致に当たって、大きな違いであると考える。

一方、事務所スペースやスタッフについては、名古屋大学の方がはるかに充実しており、大阪大学が海外拠点の充実を図る際の目標になりうると考えられる。

３．５．早稲田大学の事例

上記の調査から、中国人留学生が留学先を決める際に考慮する際に大学のブランド力や知名度が重要視されるということがわかった。そこで本節では、どのようにしてブランド力や知名度は形成されるのかを、ヒアリングでも人気のあった早稲田大学の事例から検討していく。

JASSO の平成 30 年度外国人留学生在籍状況調査結果によると、早稲田大学は留学生数が日本の大学で最も多く（5412 人)、早稲田大学留学センターによると、2019 年 5 月 1 日時点で、55.83%が中国人留学生である。このように、早稲田大学は中国人留学生からの絶大な人気を得ていることがわかる。

DIAMOND online「中国人エリートが慶應よりも圧倒的に早稲田を目指す理由」によると、このように中国人留学生が早稲田大学を支持する理由として以下の２点を挙げている。

１点目として、1896 年には清国から官費留学生 13 人を受け入れ、1913 年には、後に中国共産党の創設メンバーの一人となった李大釗が入学し、同じく創設メンバーで、初代総書記に選出された陳独秀も日本留学組で、早稲田の出身など、早稲田大学はいち早く中国との交流に取り組んだため、中国の有名な政治家も学んだ有名な大学として知名度が高い。

２点目として、2005 年には、早稲田は日本の大学として初めて北京大学内に大学事務所を設立し、同じ年に北京大学、復旦大学などの有名大学と提携してダブルディグリー制度（所属大学だけでなく、提携先の海外の大学の学位も同時に取得できる教育プログラムで、留学しても卒業が遅れないなどのメリットがある）を設けた。また、中国の高校との「指定校制度」を設置し、中国各地の高校から早稲田に留学したい学生を推薦してもらう仕組みを整えた。日本語ができる必要はなく、ＴＯＥＦＬと小論文、英語面接などによって合格を決めるもので、2016 年 5 月までにその数は 25 校に上っている。早稲田には英語だけで学位が取れるコースが学部、大学院合わせて 50 コースもあるなど、留学生に対する柔軟な受け入れ制度が存在することも挙げられる。

大阪大学の知名度を上げるに当たって、歴史を変えることはできないので、１点目を参考にすることはできないが、２点目は制度を充実させることで、対応できる。

４．課題と提言

以上のことから、中国人留学生の受け入れ推進には、日本文化が人気であるということや、大学の知名度・ブランド力が重要であるとわかった。また、知名度の向上には、留学生の受け入れ制度や交流・留学プログラムが必要であるということもわかった。

まず、中国の大学との大学間協定と交換・留学プログラムの推進を提言する。大阪大学は 2019 年 9 月 1 日時点では、中国（台湾、香港は除く）の 12 大学と大学間協定を結んでいるが、一方先ほども取り上げた早稲田大学は中国の 50 大学と大学間協定を結んでおり、両校の違いは一目瞭然である。提携校を増やしプログラムに力を入れることで、中国での知名度も上昇し、留学生数も増加すると考える。加えて、中国人の希望留学先として日本よりも欧米の方が多い点に関しては、大学のブランド力で留学生獲得を争うのは現時点では難しいため、例えば日本なら工学系など、専攻・分野に焦点を絞って中国人留学生にアピールすることが 1 つの政策として考えられる。また、中国人留学生の留学意識として、アニメや漫画などの日本文化が非常に関わっていることがわかったので、交換・留学プログラムには、このような日本文化を取り入れることで、さらに良くなるのではないかと考える。

次に留学生受け入れ制度を充実させることを提言する。現在、大阪大学で英語による学位取得コースは学部では２つ、大学院では９つと、先ほどの早稲田大学と比較すると、非常に少ないことがわかる。ヒアリングの結果、日本を留学先として希望する中国人留学生は、英語よりも日本語を重視しているという回答が多かったが、英語によるコースを増加させることで選択肢が増え、留学生受け入れ増加につながるのではないかと考える。また、現在、大阪大学は中国の計５つの協定校とダブル・ディグリー・プログラムを結んでいるが、これを利用できるのは、一部の大学院の研究科のみであるので、学部にも広げることも、留学生の受け入れ増加に寄与すると考える。

これらのことを進めることで、中国人留学生の受け入れ増加につながり、優秀な学生を獲得することができると考える。

また、本研究の課題として、ヒアリング対象が全ての調査を合わせても 40 人程度と非常に少ないこと、３．１．のアンケート回答者は主に日本語学科等の学生であり、ヒアリング対象に偏りがあることなどが挙げられる。これらのことを改善していくことで、留学生受け入れに向けてさらに良い提言を得ることが今後の課題である。

参考文献

大阪大学 HP「交流協定締結状況」
https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/action/exchange

大阪大学 HP「国際交流・留学　英語による学位取得コース」
https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/inbound/6zehse

大阪大学 HP「大学案内　ダブル・ディグリー・プログラム」
https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/announcement/main/Double_Degree_Program

大阪大学東アジア拠点 HP「東アジア拠点について」
http://www.shanghai.overseas.osaka-u.ac.jp/about/

JASSO「平成 30 年度外国人留学生在籍状況調査結果　外国人留学生受入数の多い大学」
https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2018/ref18_02.html

早稲田大学留学センターHP「留学センターについて　統計データ」
https://www.waseda.jp/inst/cie/center/data

早稲田大学留学センターHP「早稲田大学について　国際交流」
https://www.waseda.jp/top/about/work/organizations/international-affairs
-division/international-exchange

DIAMOND online「中国人エリートが慶應よりも圧倒的に早稲田を目指す理由」
https://diamond.jp/articles/-/104578